

『Tsuku-場 第9イブニング・レクチャー』アンケート集計結果

◆多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。簡単ではありますがアンケートを以下のようにまとめました。

- ・開催日： 2015年8月24日(月)19:00～21:00
- ・場所： 筑波大学 東京キャンパス
- ・内容： 若年就業者のキャリア発達課題とその支援
- ・講演者： 道谷 里英 氏 順天堂大学国際教養学部准教授
尾野 裕美 氏 横浜商科大学商学部専任講師

参加状況

申し込み人数	抽選者数	参加者	アンケート回収数
92	0	63	53

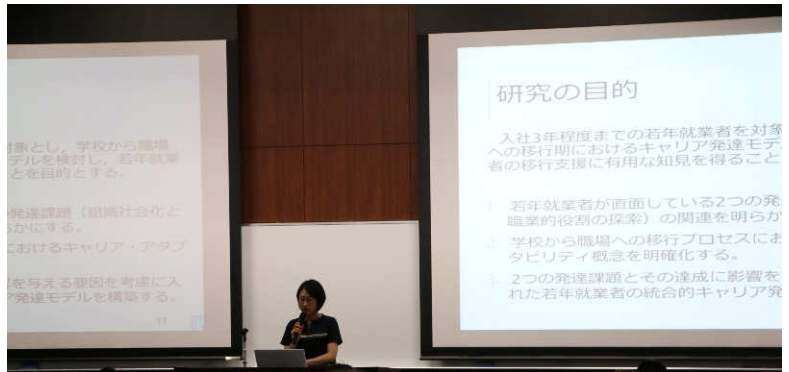
Q1.満足度について

とても高い	高い	普通	低い	とても低い	未記入	計
21	28	3	0	0	1	53

◆アンケートに書かれたコメントの中で、代表的なものを抜粋しました。

- ・若年就業者の現状の中で、環境の変化が大きい問題と感じています。若者には今後のキャリアを長い期間の中で考えていくと焦らないで自分を見つめられると思いますので若年支援(特にファーストキャリア)に就いている立場にいる自身には良い機会となりました。
- ・尾野さんのキャリア焦燥感についての研究は面白いと思いました。グループディスカッションでは、若年者が「キャリア教育」を受けて情報過多になっているのではないかとの意見も出ました。
- ・離転職意思に至る背景を分かり易く説明して頂き、支援方法について改めて考えさせられました。人は焦るのは当たり前で、その焦るは必ずしもネガティブなものではなく、プラスの焦るもあることをすっかり忘れていたような気がしました。今後、そういう方の相談の際には、そこを忘れず、相手がなぜどんな考えで離転職意思を持ったのかを聴き、相談者の経験の振り返りを支援することを頑張ろうと思いました。
- ・2つの研究が異なる切り口でありながら、つながっているところに面白さがありました。
- ・自分自身がキャリアに悩んでいる中での参加でした。つかみどころのないまま焦っていた事象に整理をして名前を付けていただいた2時間でした。キャリアに対して少しではありますが見通しがついたように思います。社会人となってからは教育を受けるチャンスはもうあまりないのだと思っていました。久しぶりの勉強は楽しくためになった気がします。
- ・若年就業者が良く言う「成長」とは何かを考える機会となりました。キャリア意欲が高い事が離転職意志につながるという調査結果は実感として考えられるものでした。キャリア焦燥感という感情がその人のキャリア発達のエンジンとなるかもしれないと気づきました。
- ・若年就業者の組織的支援が就業中の者に対して少ない(薄くなる)ことに気づきました。キャリア未成熟者にだけでなくキャリア高成熟者に対してその意欲をどのように伸ばしていくかの支援も必要ではないかと感じました。
- ・道谷さんのまとめの「振り返りの重要性」については、ディスカッションの時間の中で、学生のインターンシップでも重要であるというお話を聞き、確かにそうだと思います。
- ・企業の人事責任者として若年者のキャリア支援を進めるにあたって、「キャリア焦燥感」が潜んでいる状態の社員にどう向き合っていくべきかを検討する一助となりました。「石の上にも三年」を新入社員に呼び掛けるだけでなく、より個別具体的な支援策(職場のサポート)の重要性を強く感じています。

《講演の様子》



《ディスカッションの様子》

